

【1】① 背景の理解 大熊の知のインフラとして

地方都市では、少子高齢化→生産年齢人口減→地域経済衰退→生活利便性・居住環境悪化といった負の連鎖が起きています。具体的解決の糸口も掴めないまま、状況に身を委ねざるを得ない自治体もあります。一方、地域活性化を担う施設として図書館の重要性が増しています。気楽に立ち寄り、無料で繰り返し利用でき、本の貸出だけでなく、地域の特徴を活かした生活情報提供など多様なサービスを

受けることができます。複合化された図書館は、社会教育施設であることを越え、まちづくりや子育て・高齢者支援、さらには観光の拠点にもなっています。

しかし大熊の大きな課題は、利用者が必ずしも町内に暮らす人々ではないことです。そのため、場所性から開放された知のインフラとして、「リアル」と「デジタル」によるアーカイブや広く開かれた参加型運営は重要だと考えます。

【1】② 業務内容の理解 これから生きるために、今までを知る | 大熊だからできること

大熊町は、地震・津波・放射能、3つの災害を同時に被りました。その経験は人類史上極めて稀であり、再建をめざしたこれまでの取り組みとこれからの挑戦は、最も先端的であると言えます。**大熊で起きたこと、大熊でやれたこと、大熊で行われること**をアーカイブし、大熊から発信し未来に継ぐことは、**大熊だからできること**で

あり、今を生きる私たちの使命です。大熊町教育大綱の理念『温故創新』のもと、私たちは『不易流行』を提案します。(固定化されることなく)変化し続けることが万物の本質であるとし、この複合施設が、長期にわたり地域や世代を超えて人と共に成長し続け、生きるためのヒントを与えてくれる課題解決の場となることをめざします。

【2】① 施設デザインコンセプトに係る提案 多様な場、分散的かつ重層的な融合

□基本構想に示された5つの活動方針と5つの場

- ① 大熊での学びを支える資料や情報を大切に ← ツクリバ ミセバ
- ② 先人が積み重ねた知識に学び、わたしの経験を共有する ← マナビバ カタリバ
- ③ 他人を尊重し、仲間をつくる ← マナビバ ツクリバ
- ④ わたしたちの生活や暮らす地域を豊かにするための一歩を踏み出す ← タマリバ ミセバ
- ⑤ 一人でいても誰かと一緒にいてもいい、みんなの居場所をつくる ← カタリバ タマリバ

□5つの活動方針と5つの場の相関図

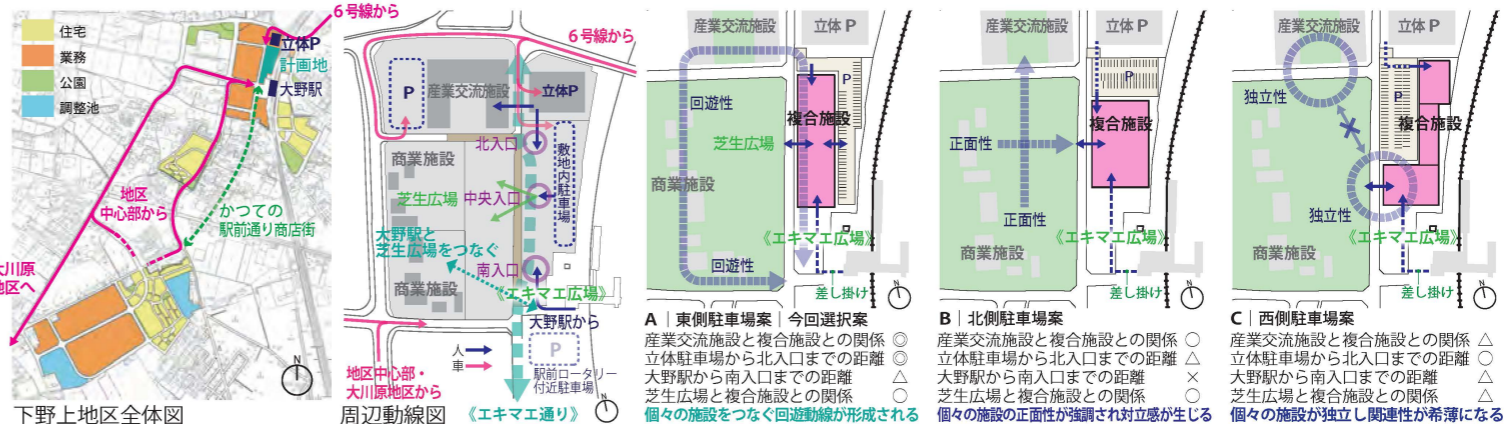


多様な価値観、多様な活動、多様な出会い、それらは自身の視野を拓け人生を豊かにすると同時に良好なコミュニティ形成を誘発します。特に大熊町を離れて暮らす人々を含めた**コミュニティの再建・創起**は重要です。その多様性を受け入れる空間にも多様性が望まれます。

図書館、博物館、公民館の諸室や諸機能を人々の活動や行為に着目し**マナビバ/カタリバ/タマリバ/ミセバ/ツクリバ**、5つの場に整理します。基本構想に示された5つの活動方針は、この**5つの場**で分散的かつ重層的に展開します。それらを右の6つのコンセプトにより再配置し、この複合施設ならではの多様な融合を図ります。

- 《コンセプト1 | どこまで人に寄り添えるか》
大熊町の特殊性を踏まえ、被災地に建つ建築の姿を模索する。ワークショップの積み重ねからそれを導き出したい。
- 《コンセプト2 | 空間の多様性と回遊性》
行き止まりのない回遊動線に沿って**5つの場**を配置する。
- 《コンセプト3 | 通り抜けできる通路状空間》
「エキマエ通り」と呼ぶ通路状空間が多様な空間を繋ぐ。大野駅から産業交流施設や立体駐車場へ通り抜け可能とする。
- 《コンセプト4 | ボリューム感を抑える》
芝生広場に面し、庇のある勾配屋根で分節された低い建物とする。
- 《コンセプト5 | 明快な管理動線》
少ないスタッフでも管理しやすく機能的な管理動線とする。
- 《コンセプト6 | バリアフリー》
スロープを効果的に配し、バリアフリー環境を整える。

【2】② 配置及び動線計画に係る提案 土地の記憶を継承し、新たな周辺環境と協調する



■南北2つのアクセス | 敷地は下野上地区の北端に位置するため、中心部や大野駅からのアプローチは南側からになります。一方、立体駐車場や国道6号線利用者、産業交流施設からのアクセスは北側からになります。そのためこの複合施設には、南北に出入口が必要です。

■敷地内駐車場 | 東側に設けられたピロティ下に配します。雨を避け最短距離で中央入口から施設に入出りできます。

■エキマエ通り | 南北の出入口を屋内でつなぐ通路状空間《エキマエ通り》は、被災前の**大野駅前通り商店街の景観の記憶**を継承し、単なる移動空間を超えて、多様な情報と出会える魅力に満ちた場となります。

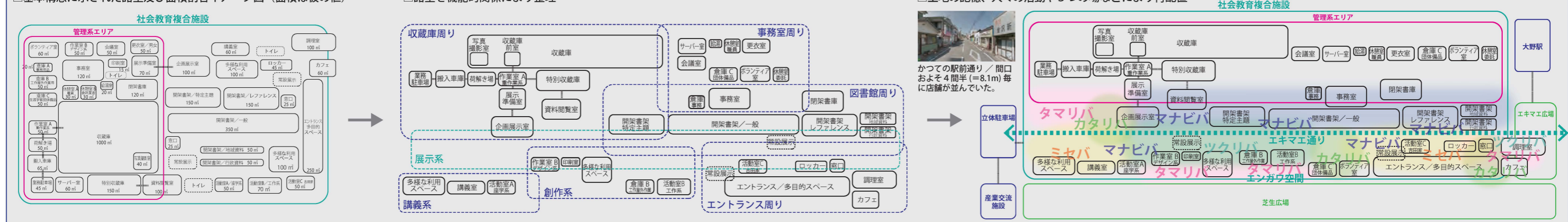
■エキマエ広場 | 複合施設を北側に寄せて配置し、立体駐車場や産業交流施設との関係を密にします。南側には大野駅から芝生広場に抜けるオープンスペース《エキマエ広場》を設けます。《エキマエ広場》は**イベントや災害時にも有用**です。大野駅から複合施設まで、雨や日射を遮る差し掛けを設けます。

■回遊性 | 大野駅や立体駐車場を起点とし、芝生広場を囲む産業交流施設や商業施設群を巡る**大きな回遊動線**の発生を促し、その大きな回遊動線の一部に複合施設を組み込みます。複合施設の閉館時でも2階デッキや軒下の《エンガワ空間》がその回遊性を担保します。

□基本構想に示された諸室及び面積割合イメージ図 (面積は仮の値)

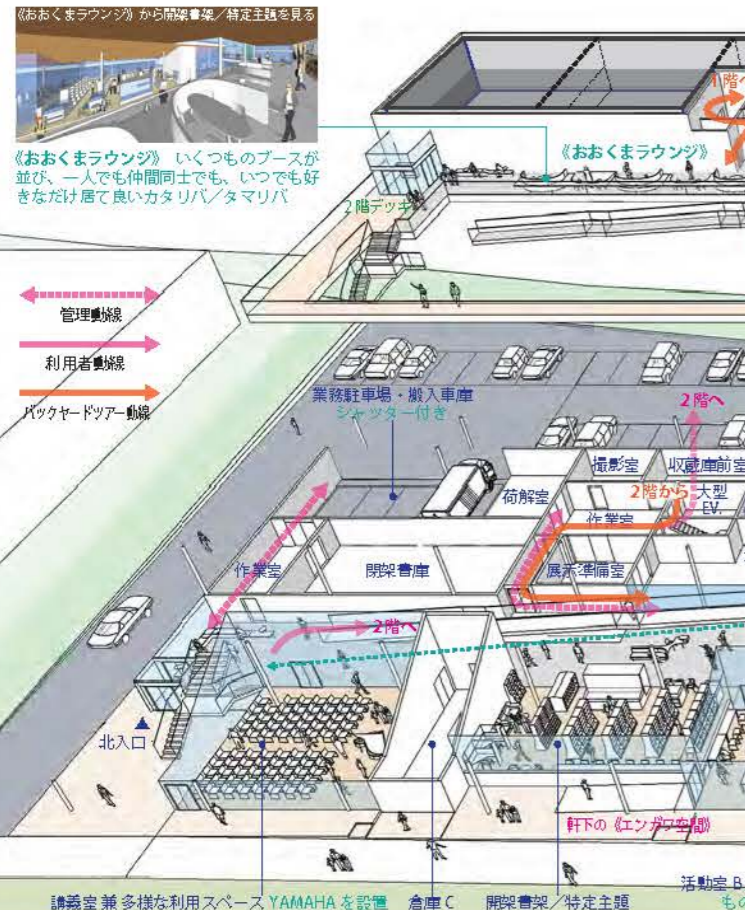
□諸室を機能的関係により整理

□土地の記憶、人々の活動や5つの場などにより再配置



【2】③ 施設計画に係る提案 多様な人々の多様な居場所

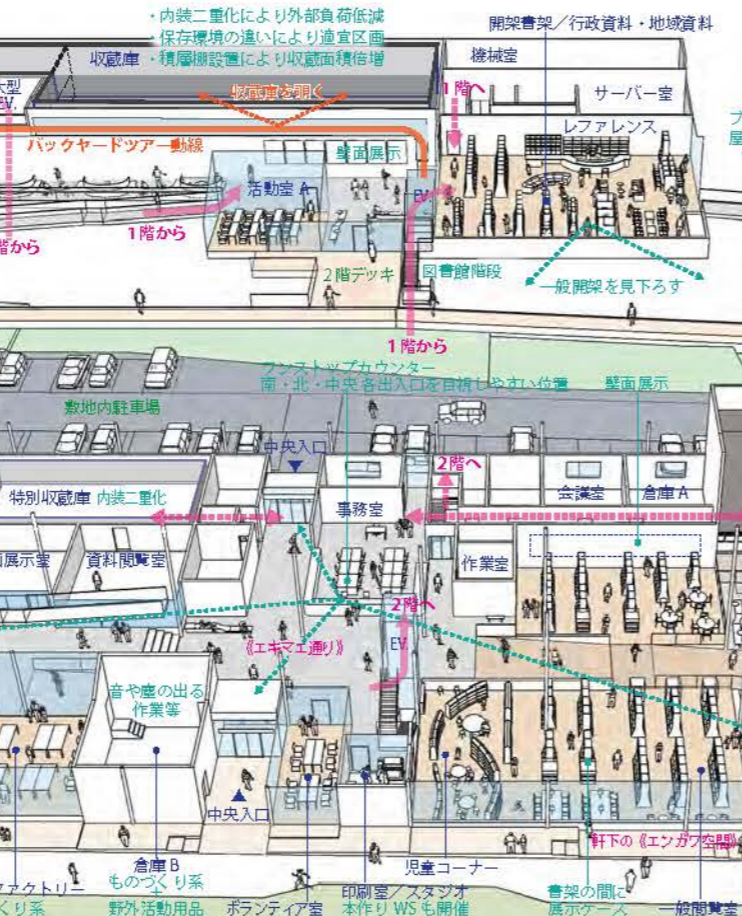
- **施設計画** | 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造2階建、収蔵庫の温湿度環境や機械室の遮音性に配慮します。
- **機能配置** | 前述の5つの場を偏りなく各階に分散配置します。通路状空間《エキマエ通り》で繋ぎます。どこに何を配置するか、協議とワークショップにより決定します。
- **ゾーニング** | 芝生広場側を利用者ゾーン、常磐線側を管理ゾーンとします。建物の中央に管理エリアをまとめます。
- **管理上の利便性** | ゆとりあるバックヤードと使い勝手の良い明快な管理動線。カフェは休館日の単独営業が可能です。
- **利用者の利便性** | 大野駅側と立体駐車場側、南北2つの出入口と、敷地内駐車場から芝生広場に抜ける中央出入口を配します。芝生広場に面して軒下の《エンガワ空間》を提供します。
- **安全性** | 利用者ゾーンは大きなワンルーム空間。どこで誰が何をしているか、管理者も利用者も容易に把握できます。BDSの導入は、協議により決定します。
- **施設内動線** | 高低差のある敷地形状とスロープを活かしたバリアフリーの回遊動線。収蔵庫を巡るバックヤードツアー動線も確保。出入口近くに多目的スペースを配置します。
- **図書館、博物館、公民館、各機能の融合** | 回遊動線を巡



【2】⑤ 環境への配慮とゼロカーボンに係る提案 徹底した自然エネルギー利用

- **自然換気** | 中間期、南からの卓越風を取入れ、重力換気効果による自然換気を行い、空調負荷を低減します。
- **自然採光** | ハイスайдライトからの眩しさを抑えた優しい光が空間を満たします。自然光の差し込み具合に応じ照明の明るさを自動制御し省エネを図ります。
- **地中熱利用** | 《エキマエ広場》に採熱管を設置し、年間を通じて安定した地中熱を空調熱源として活かします。
- **雨水利用** | 雨水を貯留し、トイレ洗浄や植栽への灌水、夏の冷房負荷を低減する屋根面への散水等に利用します。
- **太陽光発電** | Nealy ZEB をめざし太陽光発電による創エ

- ることで、分散かつ重層的に配置された5つの場から得られる情報や空間体験は一体的なものであり、図書館や博物館、公民館の境界は全く感じられないでしょう。
- **リアルとデジタル** | どちらか一方ではなくそれぞれのメリットを活かし、双方が補完し合い一つの物語をアーカイブする『大熊町方式』を確立したいと思います。
- **機能ごとの利用時間や管理運営の違いを解消** | 管理運営体制の一本化が望まれます。図書館の整理日や図書特別整理期間は、パイプシャッター等で仕切ります。
- **ユニバーサルデザイン** | 大熊町に関心を持つすべての人に開きます。多様性を認め、互いの相異を楽しむ雰囲気醸成します。託児機能は周辺施設との連携等協議を継続します。
- **大熊町の資産としての持続可能性** | 人と施設が共に成長する仕組み、運営への利用者参加の仕組みを探索します。自然エネルギー利用による維持管理費の削減など。

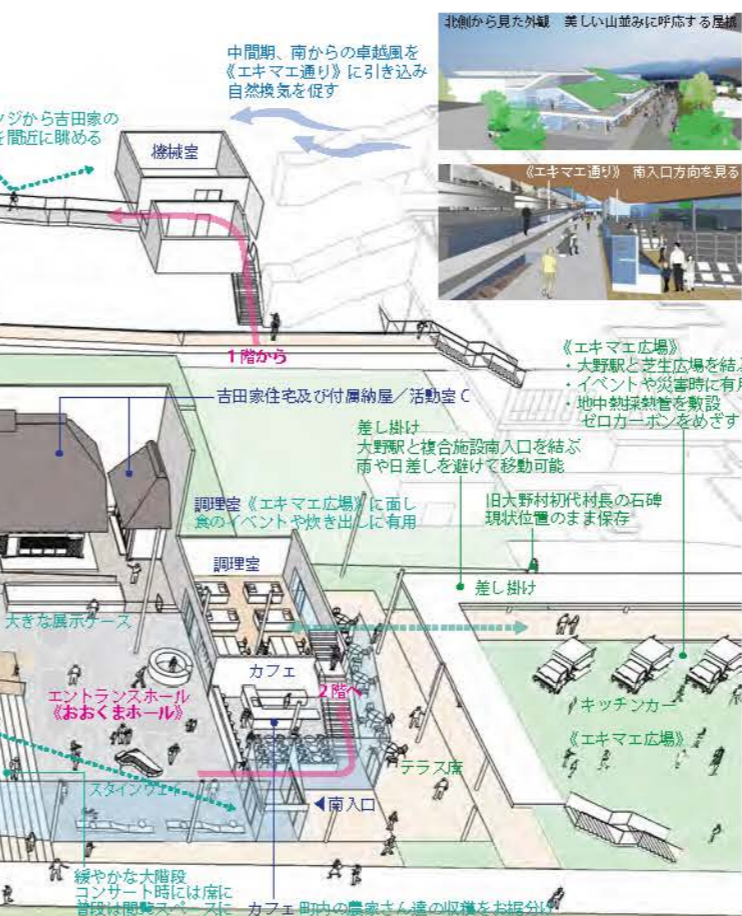


【2】⑥ 建設コスト管理・抑制に係る提案 あらゆるコストを確実に制御

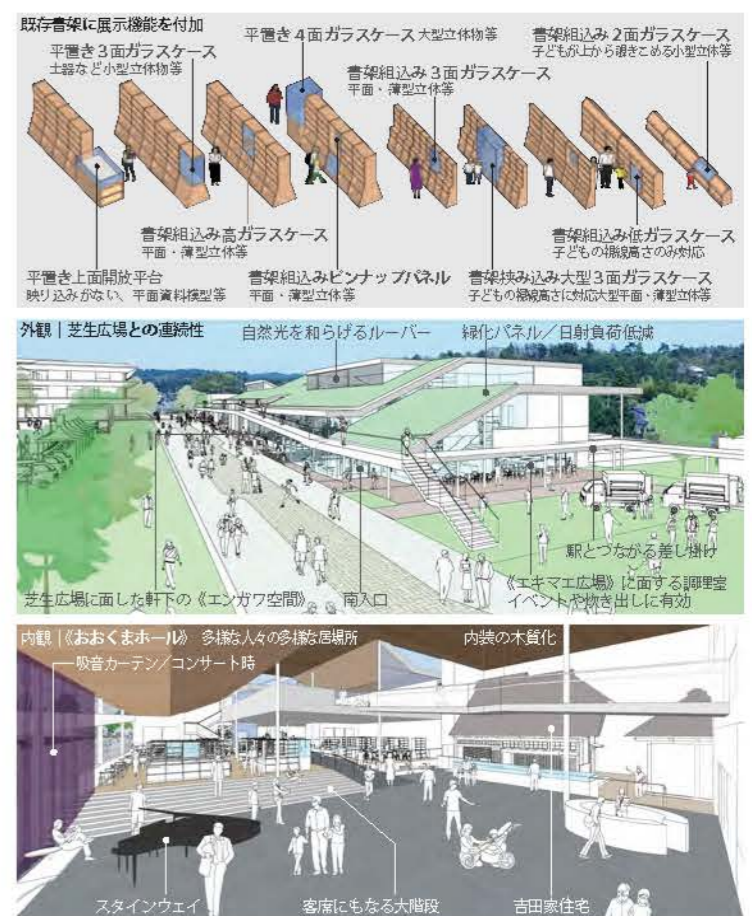
- **建設コスト** | ①設計期間の早い段階で工事種別目標工事費を設定し、設計期間中、概算を数回行い、確実に目標金額内におさめます。②産業交流施設や立体駐車場、大熊町内の他施設との連携・機能分担を再確認し、重複をさけて無駄のない計画とします。③敷地の緩やかな勾配に沿った基礎形状とし、根切り工事による発生土量を必要最小限に抑えます。④敷地東側に駐車場を配置します。線路と建物との離隔距離を確し、JR 近接工事を最小限に抑え、仮設費や工期を縮減します。⑤XY 両方向とも 8.1m の経済スパンを採用し、一般流通材で計画します。⑥平屋を主体とし、基礎への構造的負担を軽減します。

【2】④ 展示・収蔵方針（資料の有効活用含む）に係る提案 ゆるぎない機能性

- **常設展示** | 施設全体が展示空間となります。展示場所の空間特性と展示物とのマッチングや展示手法を丁寧に検証します。芸術系大学やアーティストとの協働を提案します。
- **デジタル技術の活用** | デジタル化により、大熊の外で暮らす人や世界へ向けての発信が容易になります。町外からでも、建物供用開始前からでも施設利用が可能になります。ワークショップを通じて実証実験します。
- **利用者が文化財と出会う機会を増やすための資料展示** | 施設内全体への分散展示とします。書架の間に配架内容や企画と連動する展示を行います。収蔵庫を覗いたり、空間体験するバックヤードツアー動線も用意します。
- **リアル+デジタル合わせ技** | 新たな意味と価値を生み出すため、単なる資料のデジタル化ではない展示手法。例) 永く使い込まれた急須を手にし、それにまつわるエピソードをカメラの前で語って頂く。その映像と実物の急須そのものをセットで展示。
- **資料特性に合わせた資料保存環境** | 保存環境条件の厳しさに応じて収蔵庫を区画し多重化を図り、空調コストを削減、内壁二重化による外部負荷の低減を図ります。ケ



- ミカルフィルターで有機酸、アンモニア、VOCを抑止します。
- **収蔵機能** | 搬入口→荷解室→作業室→前室→収蔵庫、収蔵庫→準備室→展示室、コンパクトで使いやすい動線計画。ゆとりある広さ。燻蒸は、ピロティや荷解室にて仮設対応。展示替えが容易な展示什器類を開発します。
- **収蔵庫増床計画** | 収蔵庫内に積層棚設置を提案。中間階が形成され収蔵面積が倍増、1000 m²→約 2000 m²。今後の受け入れ計画にもゆとりを持たせます。
- **セキュリティ、安全・防災対策** | 停電時でも収蔵庫内の急激な環境変化を抑止する断熱計画。防犯性と耐震性を持つ展示什器類の開発。少ない職員で複数の出入口を管理できる見通しの良さ。視線の抜けを3Dモデルで検証。
- **吉田家住宅等、移管物の活用** | まちとの接点をあるエントランスホールの正面に吉田家住宅及び付属納屋を展示し、過去と未来をつなぐ空間として活用します。
- **表現する場としての《おおくまホール》** | 高天井で響きの良い空間。スタインウェイのピアノを設置。観客席にもなる広く緩やかな段床。コンサートや伝統芸能などに活用。日常的には閲覧や休憩に利用できます。



【2】⑦ ランニングコスト | ①自然エネルギー利用により光熱水費削減を図ります。②深い庇や紫外線カットガラスにより資料の紫外線劣化を防止します。③深い庇により外壁の汚れや劣化防止・冷房費低減を図ります。④2階レベルにデッキを廻し、ガラス面・外壁面・屋根面のメンテナンスを仮設足場無しで行うことで仮設費を削減します。○からし期間短縮 | コンクリート工事を夏期前に完了させることで打設後2夏を1年前倒しにすることを検討します。○ライフサイクルコスト | コンクリートに高炉スラグ混入セメント、鉄骨に電炉鋼、内装材に木材やリサイクル材を用いることで建設環境負荷を大幅に軽減します。

特定テーマ 【3. 参加型施設整備に係る提案】 【4. 実施方針】

【3】① 参加型の施設整備計画及びワークショップ企画案に係る提案

- ワークショップは、マナビバ/カタリバ/タマリバ/ミセバ/ツクリバを先取りする場です。
- 様々な人々の「大熊町への思い」を受け止め、数多くの「大熊町でやりたいこと」を引き出し、それを実現するための複合施設をともに考え、ともにつくっていきます。
- ワークショップは、基本計画、基本設計、実施設計の各段階において、例えば下表のようにステップを踏んで進めます。

基本計画段階	目的	「思い」「やりたいこと」を把握し、機能融合を空間的に計画する
ステップ	ステップ1	町への「思い」を語り合う →アーカイブの空間的な展開を検討する →アーカイブ事業のキックオフとしても位置付ける
	ステップ2	町で「やりたいこと」を語り合う →学び合い、実践する場を空間的に検討する
報告会	基本計画の説明+ディスカッション	
基本設計段階	目的	「思い」「やりたいこと」を実現する空間を設計する
ステップ	ステップ1	「共に居る」という観点から設計案を語り合う →居場所や仲間づくりの場としての空間を検討する (活動方針①・②)
	ステップ2	「土地を知る」という観点から設計案を語り合う →資料が置かれる場としての空間を検討する (活動方針①・②)
	ステップ3	「町をつくる」という観点から設計案を語り合う →協働する場としての空間を検討する (活動方針②)
報告会	基本設計の説明+ディスカッション	
実施設計段階	目的	「思い」「やりたいこと」を媒介する環境(=ものやしくみ)を設計する(もう一つのテーマ:協働者の育成、協働組織の組織化)
ステップ	ステップ1	「やりたいこと」を企画する →施設内の活動をシミュレーション。もの(サインや家具等)しくみ(開館時間等)の検討を深化させる
	ステップ2	「やりたいこと」をやってみる →実践を通じてリアルスケールの検討をブラッシュアップする

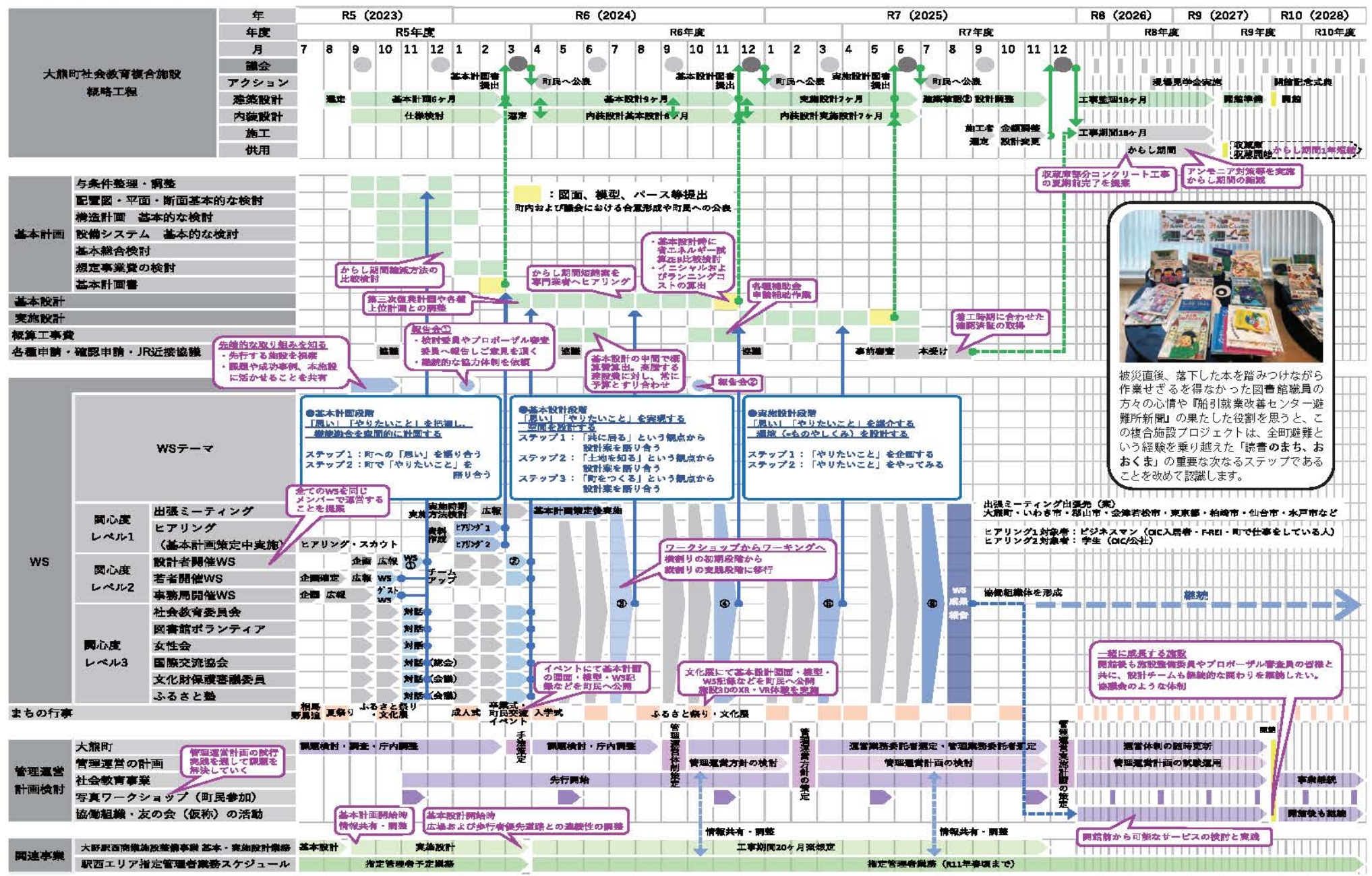
- ワークショップの参加者は、未来の利用者として『自分』が思う複合施設の使い方を考え、さらに『自分たち』が思う使い方にイメージを重ねていきます。新しい複合施設を『自分の場所』と感じ、さらに『自分たちの場所』へと転化していきます。それは主体的に担い手となるためのステップでもあります。
- 私たち設計チームはワークショップを通じ様々な使い方を引き出し、それを包み込む空間を導き出し、その空間利用の可能性をさらに押し広げるように設計に反映させます。
- 関心度に応じた対話を行う「横割り」の初期段階から、共通する関心事に応じた「縦割り」の実践的段階に移行することも想定し得ます。→《ワーキング》
- 先端的な取り組みをしている全国の複合施設の視察を行い、自らの知見を上げ、さらに大熊町への関心を抱く人々を全国に増やす機会とします。
- 大熊町を始め、双葉町、富岡町に完成した新しい施設を巡る建築ツアーの実施も対話の機会になり得ます。ref:熊本アートポリス、釜石建築ツアー

【3】② 施設管理運営計画との連携に係る提案 計画試行のための写真ワークショップと《ワーキング》

- 施設管理運営計画において、町民や町内外の協力者との協働可能性を広げ、そのメソッドを創ることが大きな目標です。
- 協働のメソッド創りにワークショップは有効です。基本設計段階のワークショップで見出される協働の芽、実施設計段階での実証的活動、あるいは開館後の利用状況など、具体的な活動やそれに結びつく主体の多様性を確認しながら、協働のメソッドを練り上げつつ、常に更新し続けることが望めます。
- 管理運営計画試行のため、過去から現在まで地域の写真資料の収集整理活動に町民が参加できるワークショップを定期的に開催します。個人所有の写真提供を呼びかけ、写真についての情報を整理しながらデータベースを構築します。写真資料と収蔵品が関連する場合は、相互に参照可能とします。システム構築とコミュニティの構築を図ります。
- ワークショップの各段階において提起される複合施設の使い方のなかから施設計画へ落とし込み可能な事項を

- 取り上げ、自然と協働が始まるような《ワーキング》の場を設計の各段階でつくりまします。供用開始前から施設利用が始まります。
- 《ワーキング》では、模型と3Dバーチャル空間を併用した検証を行います。例)基本計画段階:マナビバ/カタリバ/タマリバ/ミセバ/ツクリバの配置について。基本設計段階:サイン計画や家具什器デザインについて。実施設計段階:スタッフユニフォームデザインについて。
- 本事業での情報環境整備業務は重要です。学び、創作、発信する場でのICT環境は必須です。また、業務の効率化やデジタルアーカイブの構築には、高精細画像・動画・3Dモデルなど多様なメディアフォーマットにも対応した収蔵品管理システムも必要です。一方、複合施設ならではの図書館リファレンスデータと連携可能な管理検索機能も求められるでしょう。いずれにしても「リアル」と「デジタル」計画の推進の要となります。

【4】③ スケジュール 柔軟な対応力をもつ堅実なスケジュール



【3】② 施設管理運営計画との連携に係る提案 計画試行のための写真ワークショップと《ワーキング》

【4】④ 実施体制 経験豊富なスペシャリストたちが大熊の皆様と力を合わせます

- 鈴木 聖志 / 担当: 管理技術者 / 所属: 鈴木伸幸建築事務所 創業から半世紀以上続く福島県白河市の設計事務所を主宰
- ヨコミゾ 中道 / 意匠担当主任技術者 / aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所 東京都内設計事務所を主宰、東京藝術大学建築科教授を兼務
- 金田 充弘 / 構造担当主任技術者 / Arup 国際的なエンジニアリング会社のディレクター、東京藝術大学建築科教授
- 田村 修一 / 機械設備担当主任技術者 / Arup 福島県の先端的拠点校「県立安積中高一貫校」の設計を担当
- 向井 一将 / 電気設備担当主任技術者 / Arup 東北地方初のNearly ZEB庁舎「須賀川土木事務所」の設計を担当
- 小林 巖生 / 情報環境整備 / インフォ・ラウンジ 地域情報化・福祉情報化・教育情報化に取り組むITパートナー
- 氏原 茂将 / ワークショップファシリテーション / 国際開発コンサルタンツ 社会教育施設の管理運営経験あり、多くの図書館複合施設設計支援に携わる
- 鈴木 直之 / グラフィックデザイン / サイン計画 / ダイアグラム 表参道ヒルズやJR東日本「TOHOKU EMOTION」のロゴデザインも手掛ける
- 藤森 泰司 / 家具デザイン / 藤森泰司アトリエ 大阪中之島美術館を始め多くの図書館や学校等の家具デザインを手掛ける

- 管理技術者は、地域に根差した丁寧な仕事を積み重ねてきました。福島県内での公共施設の実績は多数あります。複合施設「矢吹町複合施設 KOKOTTO」(2020)は、その代表作です。
- 意匠担当主任は、震災直後から宮城県石巻市雄勝地区の支援と復興計画に継続的に関わり、その経験を「釜石市民ホール TEITO」(2017)の設計に活かしました。
- 構造担当は、国内外で建築家との協働により、図書館複合施設、美術館、劇場などの構造設計を数多くの手掛けています。「メゾンエルメス」(設計:レンゾ・ピアノ/2001)は、その代表作です。
- 情報環境担当は、国土交通省3D都市モデル整備事業関連の市民参加型ワークショップで、老若男女誰もが楽しめる共同作業によるまちづくりプロジェクトを進めています。
- ワークショップファシリテーターは、多様な視点を収集し、大熊町のコンテキストの中に位置付け、協働により皆が共感できる具体的な未来ビジョンを描き出したいと考えています。
- 私たちは、基本構想に込められた大熊町の皆様の想いに強く共感し、一緒にさまざまな課題の解決に挑みたいと願います。